

古新聞・古雑誌・ダンボール

ゴミとして出すまえにちょっと待って!

紙ゴミだって価値ある資源のひとつ

私たちは、ふだんなにげなく古紙をゴミとして出しています。しかし、家庭から出される古新聞、古雑誌、ダンボールなどは、もう一度新しい紙に生まれ変わる大切な資源です。また、再利用することによって、ゴミの減量にもつながります。白根市でも、焼却されるゴミの三三・五％は再生できる紙ゴミ。日本は資源の少ない国。限られた資源を有効に使うには、ゴミとして捨てるまえにもう一度みんなで再利用(リサイクル)をしていきたいのです。紙のほかにも、空きカン、大型ゴミのリサイクルが叫ばれています。ここでは紙の再利用について考えてみたいと思います。



倉庫は土、日のチリ紙交換で集められた古紙のたばでいっぱい。月曜日は問屋や製紙会社へ直送する

ゴミの山に多量の古紙が

月曜日の朝、広報車に乗ってゴミ収集所めぐり。休日後の収集日はふだんの二倍のゴミの量だというだけあって、どこの収集所もたいへんなゴミの量。無造作に積まれたゴミの山の中にあまりました。古新聞や古雑誌、それに折りたたんだダンボールのたばが、かなりの量です。中には冷蔵庫が一台スッポリ入りそうなダンボールの箱。ゴミが中に入っているらしく、とても一人では持ちあげられそうもありません。

紙ゴミではありませんが、ビニール袋に入った生ゴミがやぶけて付近をよごしています。収集車に積み上げやすいようにきちんとして出している方が多いのですが、わずかなそうしたゴミが、目につきます。衛生センターへたずねていって、収集車もどつてくるたびに、生ゴミと、ダンボール、それに燃えないゴミとに一生けんめい分別していました。「たいへんな労働量です。みんながきちんと出してくれれば助かるんですが」と、作業をしながら語っていました。

ちよつとした思いやりで、ムダな経費をかけなくてもすむゴミの出し方に、協力してもらいたいものです。

ばかにできない紙ゴミ
ゴミ処理には、たいへんなお金がかかっています。そのほとんどが税金でまかなわれているわけです。衛生センター管内(白根市ほか4町村)から出され、焼却場で燃やされる1年間のゴミは1万3,733ト。このゴミのなかに紙ゴミの占める割合は、33.5%の4,600ト。ゴミ1ト処理するのに5,000円かかります。この紙ゴミのうち、みなさんの協力で、半分の2,300トの紙ゴミを古紙回

収にまわしたとしたら、1,150万円のゴミ処理費が助かることになります。

樹木20本で紙1トン
10年以上かけて育てた樹木20本で1トの紙ができます。1トの古紙を再生すれば、樹木20本が助かることになりました。したがって、さきほどの2,300トの古紙を再生すると、4万6,000本の樹木を守ることができます。また、2,300トの古紙を業者に売ると、1トあたり4,000円として920万円もうかります。



(5) 子どもたちも紙の再生に協力。一昨年の白根第一中学校の廃品回収で、集められた古紙の山

一石五鳥の古紙の再生

回収所に出された古紙は、そのまま収集車に運ばれれば焼却がへ。紙ゴミもある程度の量は、生ゴミを燃やす助燃材として役立つのですが、でも、もったいない話です。これらの古紙は、新しい紙につくりかえることができるのです。この紙の再生(リサイクル)に協力していただくと、

- ゴミの量が減るから、たかさんの税金をつぎこむ焼却費が少なくてすみます。
- 業者に出すことによって、お金やチリ紙にかえられます。

回収所に出された古紙は、このまま収集車に運ばれれば焼却がへ。紙ゴミもある程度の量は、生ゴミを燃やす助燃材として役立つのですが、でも、もったいない話です。これらの古紙は、新しい紙につくりかえることができるのです。この紙の再生(リサイクル)に協力していただくと、

- 古紙は、新しい紙に生まれかわります。
- 山の緑も切らなくてすみます。
- それに、紙をつくるさいの石油代も半分ですむとのこと。
- ちよつとした私たちのリサイクルに対する認識と協力により一石五鳥もの得になるのです。
- 地域によっては、業者の回つてこないところもあるかもしれません。他市では、生活学校(古紙回収グループ)や、婦人会、子ども会、町内会など地域ぐるみで古紙回収をやっているところもあります。
- ゴミのことは、何でも気軽に衛生センター(☎②三七〇一)か、市民生活衛生公害係(☎②二一〇八)へどうぞ。

ゴミの出し方べり帳

紙ゴミも含め、燃えるゴミと燃えないゴミなど、収集所へ出すまえにちよつとチェックしてみてください。

- 古紙は、業者に出した方が、チリ紙やお金にかえられますのでお得です。
- やむを得ずダンボールなど出すときは、主婦が楽に持てるくらいの重さで大ききで。
- 雨の日はビニール袋に入れてください。紙袋やダンボール箱に入れるとやぶけてしまいます。
- 決められた収集日以外や、燃えるゴミと燃えないゴミ(特にガラス・セトモノ類と鉄・カン類は収集日が変わります)をまちがえたり、一緒に出されますと、収集されません。
- 酒、しょう油、ビール、サイダー、ジュース、コーラのビンはこの酒屋さんでも、お金で引き取ってくれるそうです。
- 夏のスイカは十分に水を切ってから出してください。年間の焼却費のほとんどは、このスイカのために使われています。
- ゴミの味が出ているのは気分が悪いもの。しっかりとばつて出しましょう。
- まだまだ使える家具や電化製品などの粗大ゴミを捨てるまえに広報しろね「情報センター297」へ電話して、市民にゆずってあげたいかがでしょう。



小林健一さん (神屋・資源回収)

ゴミ収集所に一番紙類を捨てているのは白根市です。地域ぐるみのグリーンサークル運動(町をきれいにする運動)を行っている市町村もあるようです。チリ紙交換で集めた古紙は、問屋を経て製紙会社で再生されます。省エネがさげばれている今日、古紙による紙の再生は大きな意義があると思います。再生紙でできた電話帳もまた再生されます。木から紙をつくるより石油は半分ですむとのこと。脱サラではじめた仕事にやりがいを感じます。



小林初さん (親和町・主婦)



森山文二さん (衛生センター)

紙ゴミですか? 古新聞や雑誌などはまとめてしばつて小屋へ。子どもたちの廃品回収のときに、一年分まとめて出してあげます。ときおり、ゴミ収集所に古新聞などの山を見かけますが、もったいないですね。あそこに出せば、燃やされてしまうのに。ゴミには、町内のみなさんがかなり気をかけていますね。オリジナルな看板のあるゴミ収集所を設けたり、町内独自のチラシをつくってPR。完全とはいえませんが、かなりマナーは守られてきたようです。

ゴミとして運ばれてくるものうち、古新聞や雑誌などは意外に少ないようですがダンボールの占める割合はかなり高いですね。そのたびに、ダンボールを区分けして業者に引き取ってもらっています。困るのはダンボールなどの重いゴミ。なかには四十鈴もあるものがあります。収集車に積みこむ人のことも考えてほしいですね。

紙ゴミは晴れた日に出してください。処理に困っています。捨てるまえにもう一度何かに使えないかを考えてみましょう。